

野口体操研究 その1

～野口三千三の体操探求の足跡～

○小林 桂（筑波大学大学院） 遠藤卓郎（筑波大学）

キーワード：野口体操、野口三千三、年表

I はじめに

野口体操は、野口三千三（みちぞう）（1914-1998）東京芸術大学名誉教授が創始した体操である。この体操は彼の死後も引き継がれ、現在もカルチャーセンター等で行われている。従来 of 体力をつくるための体操とは違い、「力を抜く」ことに特徴がある。この体操は、舞踊や演劇、芸術を中心に浸透したが、体育界では受け入れられなかった。

野口は、この体操を「自分のからだの実感を手がかりに、『自然とは何か、人間とは何か、自分とは何か』を探る営みである」といっている。つまり、これは「からだの哲学」といってよいだろう。自分のからだの内側や動きに真に向き合おうとしている野口体操が、なぜ当時体育界で受け入れられなかったのか。こわばった子どもたちのからだをほぐすことが急務となっている今、野口の体操理論が再度見直されても良い時期なのではないだろうか。

II 先行研究

野口三千三の生涯は、自分のからだの実感を手がかりに、『体操による人間変革』を、戦後50年かけて追求したものといえるだろう。それは、彼自身も言っているように、多くの未解決な部分を含みながらも、「体操」という形で私たちの前にある。現代、結果としての「野口体操」が私たちの目の前にクローズアップされている。しかし、その形成に至るまでの試行錯誤の過程はほとんど明らかにされておらず、また個々の動きとなってあらわれた成果の年代整理もほとんど進められていない。

直弟子・羽鳥操は「野口三千三授業記録の会」を発足させ、晩年の彼のレッスン「使命感・悲壮感のない遺言としての授業」を映像化してい

る。そこでは、様々なエピソードの文章化など、彼の業績を残してきてはいる。しかし、年代順の整理やそれらを年表にしたもの、また他領域との関連を整理したものはなく、野口体操の変遷の研究はまだ不十分であるといえる。

III 目的

本研究では、野口体操の形成過程を資料的に明らかにする。

IV 方法

野口の個人的周辺、体操の形成、影響を与えた事柄（芸術・身体文化・社会状況…）等を、資料をもとに年代を軸に表にまとめ、野口体操の総合年表を作成する。

<資料>

野口の著作（書籍・論文・雑誌・東京芸術大学の講義ノート「保健体育講義（体育理論 体操）」）、新聞記事、映像
その他の野口体操に関する文献
野口が関わってきた分野・人物に関する文献
※年表は、資料として発表時に配布の予定。

V 結果

野口体操は、時代とともにその思想や動きが変化していた。それらがどのような領域と関連していたかについても明らかになり、その関わりを年代順に整理することができた。

その結果、野口体操の価値は、その動き自体よりも、むしろその動きを追求し続ける営みにこそあるように見受けられた。